

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
第5学年	国語	10人	算数	10人	理科	10人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

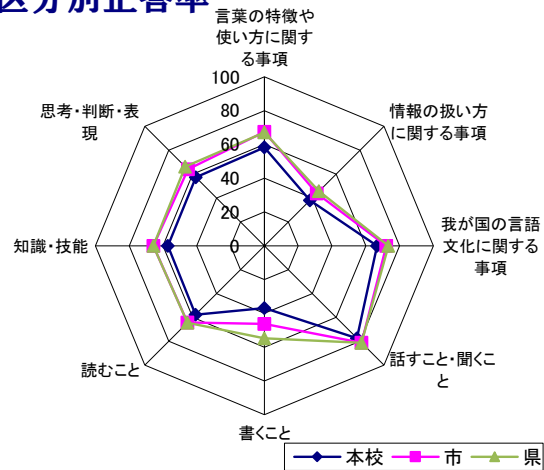
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.2	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	38.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	66.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	77.4	81.2	81.2
	書くこと	36.9	46.2	54.9
	読むこと	57.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	57.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	57.4	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

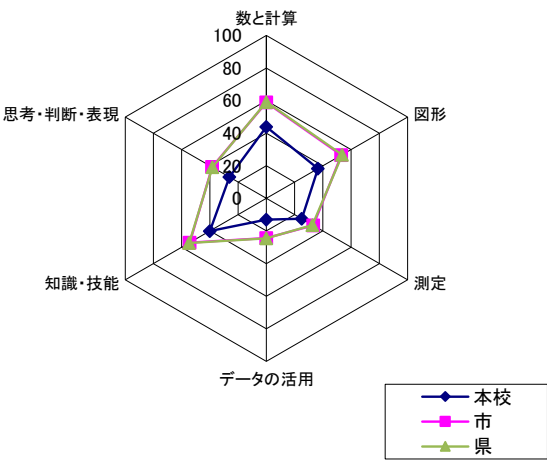
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて9.2ポイント下回った。 ●漢字の読み書きでは、設問ごとの正答率が85%～約30%と、大きく振れ幅があった。 ●主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ問題では、市の平均と比べて、大きく下回った。	・漢字の書きについて、まだまだ課題が見られた。漢字を正しく書く力をしっかりと定着させるために、宿題や朝の学習の時間を中心に繰り返し練習を行っていく。 ・語彙力に關しての正答率が低かったため、引き続き復習プリントやAIDリルに取り組みせたり、定期的に小テストを行ったりするなど、次年度の学習に繋げられるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて5.7ポイント下回った。 ●大問3(5)の、例文で用いられた言葉について、国語辞典から正しい意味を選択する問題では、正答率が38.1%であり、宇都宮市全体の傾向と同様に、約7割の児童が苦戦していた。	・国語の学習を中心に、国語辞典や一人一台端末を使って単語や慣用句を調べることを習慣化させていくとともに、基本的な言葉の意味を知識として定着させるために、繰り返し復習に取り組んでいく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて5.4ポイント下回った。 ●漢字のへんとつくりを組み合わせる問題では、市の平均をやや下回った。	・新出漢字を学習する際に、ドリルを使って部首や漢字の成り立ちを確認したり、一人一台端末を活用し、部首の仲間分けを行ったりする。また、漢字を使ったミニゲーム等を通して、漢字に親しむようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて3.8ポイント下回った。 ○司会者の話し方の工夫を説明した文として適するものを選ぶ問題では、市の平均をやや上回った。 ●参加者の発言に着目し、司会者の発言に適する内容を選ぶ問題では、正答率が61.9%であり、市の平均を15.5ポイント下回った。	・司会者の役割や工夫を理解しているが、実際の話し合いの場面で臨機応変に対応することができていないので、小グループや全体で全員が司会者を経験する機会を設けていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて9.3ポイント下回った。 ●自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題では、市の平均を15.3ポイント下回った。 ●書くことの問題は、4問とも全て市の平均を下回った。	・国語や朝の学習の時間を活用し、作文用紙の使い方、段落分け、文の構成について学習を振り返り、まずは正しい形で文章を書けるようにする。 ・ミニ作文などの演習問題に繰り返し取り組ませることで自信をつけさせ、作文に対する抵抗を取り除く。 ・ICTの活用と紙ベースの授業のバランスをとりながら、授業を進めていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて6.6ポイント下回った。 ○文章の要約を読み、空欄に適する語を書き入れる問題では、市の平均と比べて、14.6ポイント上回った。 ●叙述を基に段落の内容や場面の様子を捉える問題では、市の平均を大きく下回った。	・読書をより習慣化させ、長文への抵抗を無くしていく。 ・説明文や物語文を読む際に、叙述を基に意見を作る授業を展開していく。 ・並行読書を取り入れる。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	43.9	58.9	59.2
	図形	36.5	53.0	53.7
	測定	25.0	33.1	32.6
	データの活用	13.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	40.1	54.3	54.7
	思考・判断・表現	26.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

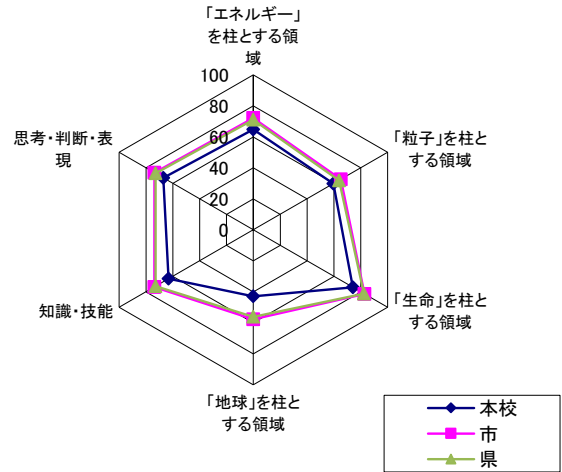
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて15.0ポイント下回った。 ●大問2「数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題」では、市の正答率より32ポイントと大きく下回った。分数の大きさについての理解に課題が見られる。 ●大問4「3けた＋3けたの計算をする問題」では、市の正答率を24.5ポイント下回った。	・分数や繰り上がりのあるたし算・ひき算などといった基礎基本の内容が身に付いていない児童が見られるので、定期的に復習や確認を行い、基礎基本の定着を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて16.5ポイント下回った。 ●「円の性質を利用して正三角形を作図する問題」では、本校の平均正答率が9.5%であり、市の正答率を29.4ポイント下回った。	・図形について多角、多面的な見方ができるようにするため、基本的な知識を組み合わせることで解く問題などに取り組む機会を増やす。 ・作図の際、正三角形や円などの性質に着目させながら取り組むようにさせる。
測定	平均正答率は、市の平均と比べて8.1ポイント下回った。 ●「時間の経過」や「はかりの目盛りから重さを答える」問題では、市の正答率を11ポイント程度下回り、本校の平均正答率は20%程度であった。	・身近にあるものの重さを量ったり、正しい単位を用いて表したりすることで、量や大きさについて実感を持った理解が図れるようにする。 ・長さや重さ、時間の経過などそれぞれについて、目に見える形で児童に示す機会を設けて数の感覚を養うと共に、それらを数量として扱って問題を解く活動に取り組む。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて11.3ポイント下回った。 ●「テーマに合う棒グラフを選び、その理由を説明する問題」では、本校の平均正答率は0%で、無回答率も47.6%であった。	・グラフの理解や読み取る力をつけるため、児童にとって身近な事柄についてグラフを利用し、慣れ親しむ機会を増やす。 ・複数のグラフを比べたり、テーマに合う適切なグラフを選んだりする活動を取り入れ、選んだ理由も含めて児童が理解できるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.8	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	59.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	74.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	42.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	63.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	67.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて7.3ポイント下回った。 ○手でにぎるとトライアングルの音が止まる理由を回答する問題、電気を通すものを選ぶ問題ではともに正答率が90.5%であり、市の平均を上回った。 ●実験の結果について当てはまる言葉を選ぶ問題では、正答率が52.4%であり、市の平均を19.6ポイント下回った。	・日常生活において磁石や電気、音の性質に興味関心を持てる内容を提示し、理解を深める指導をしていく。 ・実験を行う際には、理科の基礎的な語句を適切に使用しながら説明できるよう指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて5.7ポイント下回った。 ○実験の結果について正しいものを選ぶ問題では正答率が81.0%であった。 ●体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題では、正答率が38.1%であり、市の平均を4.2ポイント下回った。	・実験を行う際には、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。 ・実験結果から差異点や共通点を基に、問題を見出す力を育て、言葉や文章で表現する活動を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて8.7ポイント下回った。 ○ダンゴムシが昆虫のなかまではない理由を答える問題では、正答率が71.4%であり市の平均をやや上回った。 ●虫めがねの使い方について選ぶ問題では正答率が47.6%であり市の平均を7.7ポイント下回った。	・虫を調べる学習の際に常に虫めがねを使うことを意識させる。 ・虫めがねの正しい使い方を理解させることで体の細かな部分にも着目して観察するように指導していく。 ・実験を行う際は、動植物に関する基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて14.8ポイント下回った。 ●方位磁石の正しい使い方を学ぶ問題では本校の正答率が28.6%であり、市の平均を大きく下回り、課題が見られる。 ●太陽が動く方位を選ぶ問題では、本校の正答率が42.9%であり、市の平均を12.2ポイント下回った。	・理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な知識理解の向上に努める。 ・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業ではクラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答している割合が、いずれも県全体の割合よりも20ポイント以上高くなっており、話し合い活動にとても意欲的に取り組んでいることが分かる。また、「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「勉強していて面白い、楽しいと思うことがある」の質問でも県全体の肯定的回答の割合を約20ポイント上回っていることから、学習することの大切さを理解した上で、知的好奇心をもって取り組むことができていることが分かる。このような結果を今後も維持継続していけるように、話し合い活動を積極的に取り入れ、児童の学習意欲を掻き立てる授業づくりをしながら、深い学びにつながるよう指導の充実を図っていききたい。

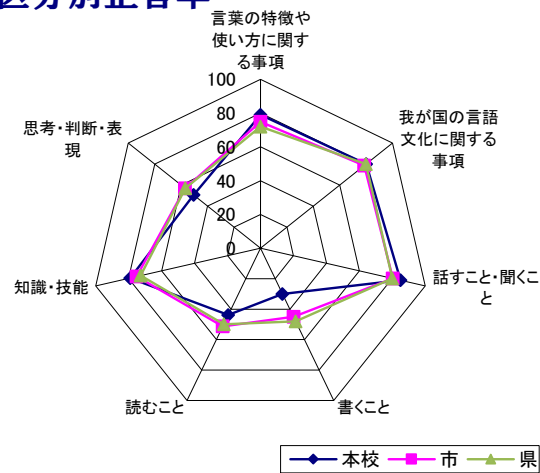
○「毎日朝食を食べている」の肯定的回答の割合が100%であり、また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「早寝早起きを心掛けている」は半数以上が肯定的の回答をしている。このことから、毎月の「生活習慣チェック」シートをきっかけに、規則正しい生活習慣が定着するようこまめに声掛けをしていきたい。

●「学校の宿題は自分のためになっている」の質問への肯定的回答は85%以上あり県の割合も上回っているが、その一方で「学校の宿題はやりたくない内容だ」の肯定的回答が9.5%、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が19.1%であり、いずれも県の肯定的回答を10ポイント以上下回っている。このことから、宿題は大切だという意識はあるが、それを復習として進んで取り組もうという意欲を持つことができていないことが読み取れる。当該学年の学習の基礎基本を身に付けられるように質を確保しつつ、児童が意欲的に取り組むことができるはたらきかけをしたり、問題数や難易度を見直したりしていききたい。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	85.0	80.4	80.0
	書くこと	30.0	45.1	48.0
	読むこと	43.8	51.3	50.0
観点	知識・技能	79.1	75.2	72.8
	思考・判断・表現	50.6	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

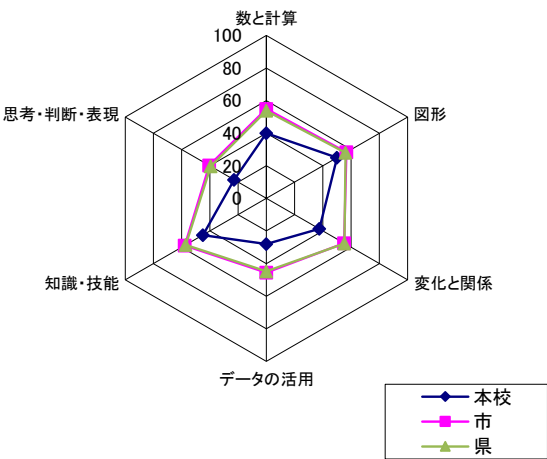
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は79.0%で、市の平均と比べて4.2ポイント上回った。 ○漢字の読むことに関しては、3問中2問が正答率100%であった。 ○漢字の書くことに関しては、3問中2問の正答率が、市や県の正答率と比べて高い。 ○様子を表す語として適する語を選ぶ問題では、正答率が100%であった。	・漢字の習得については、宿題や朝の学習等で繰り返し練習に取り組む。また、単元ごとのミニテストや学期末のまとめテストを計画的に実施することで定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は80%で、市の平均と比べて1.4ポイントやや上回った。 ○慣用句の使い方について、ほぼ理解できている。	・慣用句については、授業の中や朝の学習等で、定期的に取り上げて意味や使い方を理解できるようにしたり、自主学習等で調べるように勧めたり、言語文化に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は85.0%で、市の平均と比べて4.6ポイント上回った。 ○参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く問題では、正答率が80%であり、市の平均を15.5ポイント上回った。	・聞き取った内容を友達に伝えたり、意見や質問で話をつないだりするなど、表現する活動の充実を図る。
書くこと	平均正答率は30%で、市の平均と比べて15.1ポイント下回った。 ●段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書く問題では、正答率が20%であり、市の平均を21ポイント下回った。 ●条件に合わせて文章を書く問題において、無回答率が50%と高い。	・今後も他教科や行事と関連を図り、作文、発表原稿など文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせるとともに、適切な意見や感想を文章にまとめる力をつけていく。また、学年に応じて書くために必要な言語力を高める指導をしていく。 ・個人差が出やすい領域なので、個別指導に力を入れていく。
読むこと	平均正答率は43.8%で、市の平均と比べて7.5ポイント下回った。 ○場面の様子について、叙述を基に捉える問題では、正答率が80%であり、市の平均を7.2ポイント上回った。 ●登場人物の気持ちの変化について説明した文の空欄に適する言葉を書く問題では、正答率が10%であり、市の平均を26.2ポイント下回った。	・物語の読み取りでは、登場人物の行動や気持ちを説明したり、それらを基に具体的に想像したことなどを文章にまとめて発表したりする活動を取り入れる。その際は、考えの根拠となる叙述を具体的に示させるとともに、自分の考えの理由付けについて説明できるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	40.0	54.9	53.7
	図形	50.0	56.6	56.1
	変化と関係	37.5	55.1	55.2
	データの活用	28.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	45.0	57.8	57.2
	思考・判断・表現	22.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

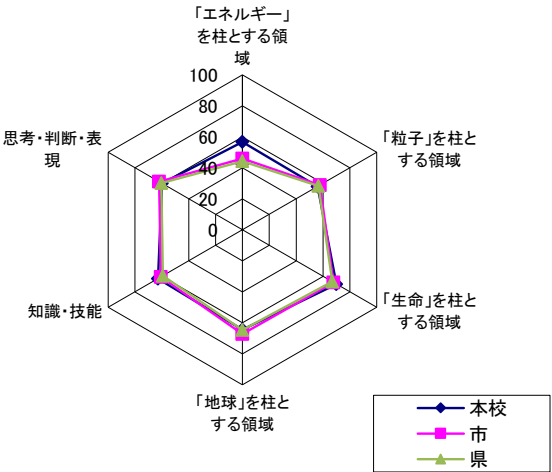
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて14.9ポイント下回った。 ○小数第一位×整数の計算では、市の平均正答率63.5%に対し、本校は80%と大きく上回る結果となっている。 ●あまりのあるわり算の計算では、市の平均正答率62.5%に対し、本校は30%と30ポイント以上下回る結果となっている。	・大きな数の表し方や小数のしくみなどといった基礎基本の内容が身に付いていない児童が見られるので、定期的に復習や確認を行い、基礎基本の定着を図っていく。 ・内容を言葉で説明する問題に課題が見られることから、授業の中でお互いの意見を説明し合ったり、ノートに書かせたりすることで考えを深く理解させるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて6.6ポイント下回った。 ○立方体の展開図について問われる問題では、市の平均正答率71.6%に対し、本校は80%と上回り、高い数値となっている。 ●平行四辺形の作図を行う問題では、本校は20%と市の平均を大きく下回り、低い数値となっている。	・基礎的な図形の問題についての定着を図るとともに、ICTなどを活用し、角や図形の理解を深める。 ・作図や角の大きさの求め方などの既習事項を再度確認し、同領域の単元の始めなどに復習を行う。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて17.6ポイント下回った。 ○割合のしくみを理解しているか問われる問題では、市の平均を1.5ポイント上回っている。 ●その他の問題は市の平均を下回っており、特に割合を使った比べ方について説明する問題では、正答率が0となっている。	・表の見方、考え方の定着を図るため、授業中だけでなく朝の学習の時間を活用して問題を解く時間を確保し、変化と関係に関する問題に慣れさせる。 ・基礎基本の内容の定着を図るとともに、数と計算の領域と同様に、互いの意見についてノートに書かせたり、説明し合ったりする授業を展開する。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて17.5ポイント下回った。 ●どの設問も市の平均を下回る結果となっており、特に折れ線グラフを読み取る問題に関しては市の平均正答率58.3%に対して、本校は20%と大きく下回る結果となっている。	・授業の中で、式と計算について、言葉を使って説明を書かせるようにしていく。 ・発展問題や記述の問題にも取り組める時間の確保をしていく。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	56.7	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	56.0	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	64.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	62.9	60.8	59.2
	思考・判断・表現	60.0	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて10.7ポイント上回った。 ○3問中すべて市の平均正答率を上回った。 ○電流が大きくなる回路を選ぶ問題では、正答率が50.0%と市の正答率を上回った。	・今後も体験的な活動を充実させ、児童の学習の積み重ねが図れるようにする。 ・実験を行う際は、電流の働きに関する基本的な用語や語句を適切に捉えて行えるようにし、実験の意味や目的を明確化し、丁寧に指導するよう努める。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて1.7ポイント下回った。 ○金属の温度と体積の変化について選ぶ問題では、正答率が100%であり、市の87.2%を大きく上回った。 ●金属の温度と体積に関する問題では、3問中2問が市の平均正答率を下回り、記述問題の正答率が30.0%であり、市の平均より5.4ポイント下回った。	・今後も身の回りの現象など、児童にとって捉えやすい内容について、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、日頃から現象について触れる機会を設ける。 ・実験結果の理由などについて、児童が自分の言葉で説明する場を積極的に設け、児童が得た知識を活用する機会を増やす。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて2.2ポイント上回った。 ●季節ごとの動物の活動についての問題の正答率が、市の平均を下回った。 ○骨と関節の名称を答える問題では、正答率が100%であり、市の82.4%を大きく上回った。	・今後も身の回りの動植物など児童にとって捉えやすい内容については、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、教科書で取り扱う動植物のほかにも例を挙げ、児童の知識の幅を広げることに努める。 ・季節の移り変わりに伴う動植物の変化など、一連の流れで覚えるものについては授業での指導に加え、掲示物等で視覚的に捉えやすくし、理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて2.8ポイント下回った。 ○水の流れについての身近な問題では、2問共正答率が90.0%で、気温のはかり方として正しいものを選ぶ問題では、80.0%と市の正答率を上回った。 ●水蒸気が冷やされることで水になることを答える問題では、正答率が20.0%と市の53.7%を大きく下回った。	・今後も理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な用語等について知識理解の向上に努める。 ・図や表、グラフなどについての基礎的な読み取り方を丁寧に指導する。また、違いを比べたり推移を考えたりするなど資料に親しむ機会を設け、理解の充実を図るよう努める。 ・水の性質について、既習の内容や生活経験と結び付けて、温度を変化させたときの状態の変化について考えられるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、市や県の割合を上回っている。このことから児童が家庭学習を習慣化し、自分で計画的に学習に取り組んでることが分かる。

○「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時こくにねている」「早ね、早起きを心がけている」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、市や県の割合を上回っている。このことから児童が基本的な生活習慣の重要性について理解し、実施できていることが分かる。今後も学校での声掛けや、健康的な生活を送ることの重要性について話をするなど、児童が基本的な生活習慣を継続できるようにしていく。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問に4時間以上と回答している児童の割合が、市や県の割合を大きく上回っている。このことから、動画の視聴時間をはじめとするメディアの適切な利用の仕方について、児童への注意喚起や、学年だより等で保護者への呼びかけも行っていきたい。

宇都宮市立篠井小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～	○宇都宮モデル(はつきり・じっくり・すっきり)を活用した授業改善の推進 ○少人数指導を取り入れた、個に応じた指導の展開 ○比較・分類・関係付け・理由付けを促す発問の工夫 ○ペアやグループ学習など、協働して課題に取り組む指導の実践 ○一人一台端末等のデジタル機器の効果的な活用	・「授業の中で、目標がしめされている。」の肯定回答率は4年90.5%5年100% ・「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定回答率は4年85.7%5年100% ・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定回答率は4年71.4%5年90% ・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の肯定回答率は4年95.3%5年100% ・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定回答率4年90.5%5年90% ・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定回答率4年66.7%5年100%

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎的な内容が十分に身に付いていない児童が見られる。	・個に応じた指導の工夫	・低学年からの基礎・基本の定着を意識し、小テストで理解度を図ったり、定期的に復習プリントを行ったりしていく。 ・単元の導入時には、前の単元の確認を行い、定着度を確かめながら学習を進めていく。 ・少人数指導、朝の学習でのTT指導など、指導体制を工夫するとともに、AIドリルなども活用し、個に応じた指導を推進していく。
・国語では、書く・読む領域、算数では、図形・データの活用の内容に課題が見られる。	・苦手とする領域を意識した指導の充実	・苦手とする領域の問題の解き直しを行ったり、過去問題を解いたりすることで、様々な問題の形式に慣れさせていく。 ・図形の作図やグラフの作成などは紙ベースで、できるようになるまで繰り返し取り組ませていく。
・どの教科においても、考えや理由を説明する問題に苦手な傾向が見られる。	・表現力を高める指導の工夫	・授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉や文章にする機会を多く設定する。 ・辞書の使用を習慣化させていき、語彙力を増やしていく。